

Campus Magazine



新型コロナウイルス感染症対策のため検討に検討を重ねた結果、感染防止に細心の注意を払い令和2年度入学式が青森県立保健大学講堂において行われ、健康科学部・健康科学研究科あわせて246名の新たな仲間を迎えることとなりました。

新入生の名前が一人ひとり読み上げられ、緊張と期待に満ちた声で返事をする新入生の姿が印象的でした。全員の入学が許可された後、上泉和子学長から、「みなさんは保健医療福祉におけるヒューマンケアを実践する専門職となるべく、この場にいます。どうぞあなたたちの人間性を高め、高い志をもって、ヒューマンケアの担い手になるということを肝に銘じてほしいと思います。」との言葉が述べられました。入学生代表宣誓では、相内吏那さん（看護学科1年生）が新入生を代表して、医療従事者としての役割を果たし、人々の多様なニーズに対応するためには「ヒューマンケア」の精神が必要であり、この精神を基盤とした多くの知識や技術を学び、少しの努力も怠らずに、日々励んでいくことを誓いました。

新しい仲間を迎えての新たな1年が今年も始まります。本学で積んだ経験の一つひとつが、数年後の彼らの大きな成長と夢の実現へと繋がっていく、その一歩を踏み出した記念日であることを感じさせてくれる入学式でした。

令和2年度
入学式

4月7日
(火)



新入生研修



例年、青森県平川市の南田温泉ホテルアップルランドにおいて、一泊二日の新入生宿泊研修を行っていましたが、新型コロナウイルスの感染・拡大防止のため、開催内容を縮小して学内で新入生研修を行いました。この研修は、新入生だけでなく、上級生、教職員と交流することで、交友関係や信頼関係を築くこと、また、新生活での不安の解消を目的としています。今回の研修には、学生自治会の9名と、各学科の上級生47名の、合わせて56名が研修サポーターとして参加しました。講堂で学生自治会によるアルコールハラスメント防止の講演と、栄養学科の上級生による健康的な食生活をテーマにした講演が行われました。学生が主となって企画し、資料を作成し、講演を行いました。学生目線の内容に新入生は興味深そうに聞いてくれたため、充実した講演となりました。その次に、学科ごとの教室に移動し、学科別自由討論が行われました。これは上級生が中心となり、新入生の勉強について、学校生活上の不安などを話し合いながら、アドバイスするというものです。勉強や私生活についてなどテーマ別にたくさん話し、和やかな雰囲気で行われました。新入生と上級生は、この場でお互いの距離を縮め、信頼関係を築いていました。学生自治会や上級生サポーターが力を発揮してくれたので、講演などの真剣な内容のときには伝えたいことを伝えることができたと思います。また、自由討論のときには場を盛り上げてくれ、新入生が楽しそうにしてくれていたのが良かったです。今年度は、新型コロナウイルスの影響により例年とは違う形での開催となりましたが、新入生がこの研修を機に、充実した大学生活をおくれることを願っています。

(学生自治会長 佐藤遼典)



新センター開設 について



青森県立保健大学
理事長 上泉 和子

理事長あいさつ

本学は、地域の“健康と福祉”の未来をリードする大学を目指して、平成28年に将来構想をつくりました。

その実現に向け、令和2年4月1日に、キャリア開発センター及びヘルスプロモーション戦略研究センターを、本学C棟1階に開設しました。

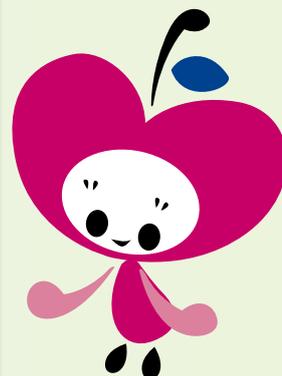
キャリア開発センターは、キャリアの見える化とキャリアサポートの充実を目的に、専任のキャリアサポートコーディネーターを配置して、在学生、卒業生、そして県内の保健医療福祉従事者のキャリア形成を一体的に支援します。また、令和3年度からはじまる看護学科の地域定着枠入学生の支援も行うこととしています。

ヘルスプロモーション戦略研究センターは、健康科学の研究拠点化の推進を目的に、地域連携による地域貢献活動、ヘルスリテラシー推進活動、プロジェクト型研究事業、研究成果の発信、知的財産の管理等を行います。

この二つのセンターがキャリア支援や共同研究などに活用され、学生や地域の皆さま共々集い、活気あふれる空間となりますことを願っています。



センターの看板を設置する副知事と理事長



新たに設置されたリンリンズルーム



開所式でのテープカットの様子

キャリア開発センター



キャリア開発センター長
角濱 春美

本年より、青森県立保健大学キャリア開発センターが始動いたしました。本学はこれまでも学生や保健医療福祉専門職の方のキャリアアップの支援を行ってまいりました。この度、この機能をより一層強化するために、センターとして新たにスタートを切ることになりました。

キャリア開発センターの主な目的は、本学学生に対して在学時、卒業後のキャリアアップをサポートすること、県内を中心とした保健医療福祉の専門職の方のキャリアアップを支えること、若者の地域定着を促進することです。新たに設けた看護学科の地域定着枠入試学生のサポートもこのセンターが担当します。

自由ヶ丘側の入り口に入ってすぐのところに、明るくオープンなスペースを設け、専門職員を配して対応しており、学生が頻繁に訪れております。センターの事業によって、より一層地域との連携が密になり、親しみやすく、頼られる保健大学を目指しております。

学生のキャリア形成支援

- 1) 本学の学生が、自らのキャリアへの価値を発見するための支援を行います。
- 2) 本学で身に付けた保健・医療・福祉の専門家としての能力を十分に発揮できる就職や進学の支援を行います。
- 3) 卒業後のキャリア探求を継続する支援を行います。

地域で活躍できる学部学生等の育成

- 1) 保健・医療・福祉職や若者の地域定着を推進します。
- 2) 学校推薦型選抜(地域定着枠(キャリア形成支援枠))で入学した学生の支援を行い、地域に必要とされる看護人材の育成支援を行います。

保健・医療・福祉専門職の生涯学習支援とこれによる地域課題の解決

- 1) 専門職の研修や教育を行い、生涯学習を支援します。
- 2) 本学大学院及びヘルスプロモーション戦略研究センターにおける、地域課題解決のための研究的取組への参与を促進します。
- 3) 地域で暮らす人々の健康の増進に必要な知識や技術、態度について、専門職への教育を行います。

キャリア開発方法の研究と発信

本センターの事業を通し得られたキャリア開発や地域開発にかかわる知見を探求し、その共有に努めます。

ヘルスプロモーション戦略研究センター



ヘルスプロモーション戦略研究センター長
吉池 信男

「ヘルスプロモーション」(健康の推進)は、自分たちの健康と幸せを、互いの理解と協力によって、より良いものにしていくことです。私たちは、皆様の健康とそれを支える日々の生活や社会環境について研究し、教育や実践につなげることを通じて、社会に貢献する大学でありたいと思っています。このたび、「ヘルスプロモーション戦略研究センター」を立ち上げたのは、これまで以上に「強い意志」と「考え抜いた戦略」をもって、これらの活動を行いたいと考えたからです。既成の枠組みや考え方から抜け出して、社会の多様性を踏まえ、より幅広い連携の下で、新しい社会に対応できるよう、下記の活動を進めて参ります。

皆様のご支援とご理解をどうぞよろしくお願い申し上げます。

- 1 プロジェクト型研究
- 2 国際交流と地域の国際的な「多様性」への対応
- 3 地域における多様な連携・協働の推進

プロジェクト型研究 ヘルスプロモーション戦略研究・開発プログラム

地域の健康課題を解決するために、様々な連携の下で、様々な専門性を有する研究者・専門職等が協力しながら、研究プロジェクトを実施します。若手研究者や大学院生の育成と社会実装・地域還元を重視した活動を目指します。

国際交流と地域の国際的な「多様性」への対応

国際的な視野からの研究や実践、それを担う人材を育成するために、海外の連携大学等との学術・教育交流、教職員や学生の海外研修支援、海外からの学生・研修生の受け入れ支援、戦略的な語学教育、地域で暮らす外国人の方々を支援できる人材育成に取り組めます。

地域における多様な連携・協働の推進

地域における「ヘルスプロモーション」に貢献するために、自治体、地域団体、民間等との連携・協働による活動、学生ボランティア活動の推進、公開講座の開催、「健やか力」(ヘルスリテラシー)の向上を目指した取組などを行います。



看護学科



助産診断技術学演習 (助産コース)

健康教育の一つ、沐浴指導のシミュレーション。助産師・妊婦役になり、モデル人形を用いて沐浴演習をしています。未来の助産師を目指して前進中です。



老年看護学概論

高齢者の暮らしやすい生活環境や援助のあり方を考えるきっかけとして、高齢者疑似体験セットをつけて日常生活を再現した演習をしています。



看護学科長
木村 恵美子

キャリアを見据えて

看護学科は看護の専門職である、看護師・保健師・助産師を養成しています。ここでの学びは、専門的知識・技術を修得し国家試験を受けて免許を得ることだけではありません。対象となる人間の特性を知り、ニーズを適切に把握した上で、他職種と連携して、看護を実践し、より良く！に向かって目指していくという総合的な力を身につけることも含まれます。看護学科では、実践に近い多様な教授法を用いて学生がイメージしやすいよう工夫し、各施設の実習指導者とも連携し、学生が主体的に考え、実践できる実習環境となるよう整えています。1~4学年の約450人の学生達へは、チューター制による学生支援をはじめとし、国家試験対策・就職対策・シミュレーションラボ委員会等、4年間の学業を支える多様な支援体制を整えています。教員は未来の看護職となる学生達に「教え・育み・伸ばす」を基に一丸となって丁寧に対応しています。社会状況が目まぐるしく変化する中で、適切な学びの環境となるよう努めて参ります。保護者、地域ならびに同窓生の皆様には、今後ご支援お願い申し上げます。

令和元年度卒業生 近況報告



青森県立中央病院
看護師
工藤 花奈さん

みなさんこんにちは！私は現在、青森県立中央病院の耳鼻咽喉科・頭頸部外科に勤務しています。現在は、先輩とダブルを組んで業務を教わりながら、当科特有の疾患や治療について学んでいます。在学生のみなさんにはぜひ、実習の中で看護師や患者さんとのコミュニケーションを積極的に取ってほしいと思います。看護師同士がどのように連携しているのか、患者さんの状態に合わせたコミュニケーション方法は何かを学ぶ貴重な体験だと思います。大変ですが頑張ってください。応援しています！

理学療法学科



運動器障害理学療法学実習

授業では骨、関節、筋の運動器疾患の病態を理解し、理学療法検査及び治療方法を学びます。写真では整形外科疾患による歩行の変化について説明しています。



物理療法学実習

温熱・寒冷、電気、超音波などの物理的な刺激を体に与える治療法で、実習で安全で効果的な治療方法を実践的に学びます。写真は腰を牽引する機器の操作方法を実習している場面です。



理学療法学科長
岩月 宏泰

理学療法学科の特徴

本学科では1学年31名の定員に対して、医師、理学療法士等からなる専任教員が最新の医学、理学療法学理論及び技術の実際について教授しています。また、各学年とも2名の教員による担任制をとっており、学生からの学業や生活に係る相談に親身に応じ学生生活支援にも力を入れています。さらに、理学療法についての臨床能力を高めるために、教材開発、演習形式の授業の展開、学外実習施設と連携した臨床実習の充実などを行っており、高い効果を挙げています。本学科では将来地域でヒューマンケアに根ざした理学療法を実践できるよう情熱的に指導しております。

令和元年度卒業生 近況報告



弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
理学療法士
五十嵐 大地さん

私が就職した弘前脳卒中・リハビリテーションセンターでは超急性期から回復期まで施設内で完結したリハビリテーションを学ぶことができます。現在は十分なリスク管理のもと業務、評価・治療を実施しており、日々勉強の毎日を過ごしています。そこで学内外での勉強に取り組む姿勢が大切だと思います。初心を忘れずに、患者様にとって何が必要で、自分のアプローチが生活場面でどこに繋がっていくのかをイメージしながらプログラムを立てられるように勉強を頑張ってください。

社会福祉学科



社会福祉基礎実習Ⅰ

1年前期の必修科目です、グループ単位で実習先について調べ、実習計画を立てて福祉施設2カ所で見学体験実習を行います。福祉の現場を知り、社会福祉を専門的に学ぶ第一歩の授業になります。



精神保健福祉士関連科目

2年次では精神疾患の基礎理解、精神障害のある人や家族の生活状況、支援の基礎的な考え方を学びます。3年次では演習を通して支援方法や考え方を学び、また精神保健福祉制度の理解を深めます。3年次、4年次に精神科病院と地域の事業所等での実習を通して学びを深めます。



社会福祉学科長
大山 博史

社会福祉学科における学び

社会福祉学科では、社会福祉の専門職に必要な知識や考え方を学ぶことができます。また、演習・実習をとおして、専門的な援助の技法を学ぶことができます。少数制の特徴を生かして、授業は段階的に無理なく進められておりますので、積極的に参加することにより、確実に学びを深めることができます。

本学科では、教員が専門分野を生かし、地域に貢献していることも特徴です。これらの教員の指導の下、学生自身が3年生から卒業研究に着手します。社会福祉の理論や歴史的側面、支援に関する実証研究などに触れ、社会福祉のグローバルな知見と実践の統合を図ることができます。また、国家資格である「社会福祉士」と「精神保健福祉士」の養成を担っており、国家試験合格率は全国でトップクラスを維持しています。就職率も非常に高い水準にあり、卒業生は福祉、医療、行政等の現場で活躍しています。本学では、卒業後に専門性を高め、研究を深める大学院も設置しています。

保護者や同窓生の皆様、地域の方々には、今後も社会福祉学科へのご支援をお願い申し上げます。

令和元年度卒業生 近況報告



青森県立子ども自立センター
みらい
主事
長谷川 和さん

私は4月から青森県庁に入庁し、青森県立子ども自立センターみらいという児童自立支援施設で働いています。業務としては子どもの生活指導等を行っています。新しい環境で不安もありますが、子どもたちや先輩方に助けてもらいながら頑張っています。子ども一人一人を理解しながら、子どもに寄り添える支援者として成長していきたいです。

みなさんも大変なことがたくさんあると思いますが、お互いにそれぞれの道で頑張りましょう！応援しています。

栄養学科



基礎栄養学実験

ヒトを対象とした実験で、基本的な栄養素の消化、吸収、代謝、排泄やエネルギー消費、代謝に変化を及ぼす遺伝子多型についての理解を深めます。写真は、呼気ガス分析で身体活動の消費エネルギー量の測定を行っている様子です。



臨床栄養学実習Ⅰ

特に医療施設における各疾患に適した治療食の献立展開と、その調理を実践します。調理した食事や特殊調整食品を試食することで、食べる側（対象者）を体験し、その経験を次の献立作成や食品選択に活かすことができます。



栄養学科長
今 淳

管理栄養士は天職です

適切な量と質の食物を口から正しく摂取し、消化・吸収・代謝が正常に行われる場合に、私達は健康を維持できます。しかし、このプロセスに異常を来すと、病気に陥り死に至ります。このような状況では、医師からの医療を受けても、完治は望めません。この問題を解決するのが管理栄養士です。管理栄養士は、一人一人の食のプロセスを完璧に是正し、疾病の治療と予防を行う唯一のプロです。命の源を握っており、正に

天職です。学生諸君には、管理栄養士の責務の重要性を決して忘れず、誇りと気概をもって頑張ってもらいたいと思っています。そのために我々教員は、最高レベルの医療を提供できる管理栄養士になるよう、厳しく鍛えています。挫けそうになる者もいるかも知れませんが、大きな志を持って入学してきた学生諸君の全員が挫けずに精進し、青森県のみならず、日本、そして世界へと飛躍することに期待し、厳しく且つ愛情を持って指導しています。

令和元年度卒業生 近況報告



盛岡友愛病院
管理栄養士
山本 樹理さん

私は現在、盛岡友愛病院の管理栄養士として働いています。主な業務内容としては、食材料の検品、食数管理等の給食業務や、献立作成、栄養管理計画書の作成、栄養指導などです。現在は見習いとして調理場での盛り付けや配膳業務を主に行っています。覚えることばかりで大変ですが、先輩方に熱心にご指導いただき、日々業務に励んでいます。

今後は、大学生活で得た様々な学びを生かしてさらに勉学に励み、他職種の方々とも協力しながら、管理栄養士として患者様に貢献できるよう努めたいです。



後援会会長
齋藤 勝博

後援会会長あいさつ

後援会会員の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本学は、建学の理念である「ヒューマンケアを実践できる人間性豊かな人材の育成」のもと、実践的な社会人育成に向けた専門性の高い大学として着実にその存在感を高めてきております。

後援会では、新入生研修や学生の福利厚生、大学祭、

サークルなどの活動及び卒業研究の助成等、学生が大学に入学してから卒業するまでのさまざまな場面で学生に対する支援を行っております。

後援会会員の皆様のご理解とご協力のもと、後援会では、これからも学生の成長を温かく見守っていきたくと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和2年度青森県立保健大学後援会役員名簿

会長	齋藤 勝博 (看護学科4年)	理事	中村 智子 (看護学科4年) 村上 玲奈 (理学療法学科4年)
副会長 (理事)	太田 幸夫 (理学療法学科1年) 逢坂 愛子 (看護学科3年)	監事	高松 誠 (看護学科1年) 稲葉 愛 (社会福祉学科3年)
理事	佐藤 光恵 (看護学科1年) 舘山 久子 (社会福祉学科3年) 嵯峨 真紀 (栄養学科3年)	顧問	鳴井 ひろみ (学生部長)

※()内は在学中の学生の学科及び学年です。

後援会 決算、予算

令和元年度 後援会決算書

項目	予算額(A)	収入額(B)	比較(B-A)	摘要
1 会費収入	11,650,000	11,680,000	30,000	@50,000×226人(学部学生) @25,000× 1人(編入学生:看護) @37,500× 2人(編入学生:栄養) @20,000× 14人(大学院生)
2 前年度からの繰越金	24,534,218	24,534,218	0	
3 雑収入	168	208	40	預金利息等
合計	36,184,386	36,214,426	30,040	

項目	予算額(C)	支出額(D)	比較(D-C)	摘要
1 会議費	27,300	800	△ 26,500	後援会総会・理事会等出席に係る 役員の交通費
2 事務費	122,000	111,566	△ 10,434	保護者等懇談会の開催案内発送費、 各事業費振込手数料
3 事業費	11,903,000	10,954,898	△ 948,102	
(1)サークル活動助成費	1,732,000	1,402,800	△ 329,200	自治会活動助成費、サークル助成費
(2)大学祭等助成費	1,500,000	1,500,000	0	大学祭運営費
(3)会報誌作成費	191,000	207,416	16,416	大学広報誌(年2回)後援会負担分
(4)学生福利厚生費	2,081,000	1,746,927	△ 334,073	肝炎検査、貧血検査、 実習に係る諸検査費用
(5)国際交流助成費	0	0	0	平成30年度以降は申請があった場合、 検討する。
(6)就職対策費	0	0	0	学科別ガイダンス、ワークショップ 平成30年度以降は大学の事業費として支出
(7)卒業関係・国家試験 対策関係助成費	3,942,000	3,626,515	△ 315,485	卒業関連事業助成、卒業研究助成、 特別・課題研究助成
(8)新入生研修費	2,442,000	2,451,000	9,000	新入生に対する学内研修及び 学科別交流に要する昼食代等
(9)アカデミックカウン タリーニング	0	0	0	卒業(修了)式・学位授与式着用分の クリーニング代平成30年度以降は大学の 事業費として支出
(10)その他	15,000	20,240	5,240	大学院生関連事業
4 予備費	52,000	0	△52,000	
小計	12,104,300	11,067,264	△1,037,036	
5 次年度以降事業費	24,080,086	25,147,162	1,067,076	
合計	36,184,386	36,214,426	30,040	

※次年度への繰越金 25,147,162円(総収入 36,214,426円 - 総支出 11,067,264円)

令和2年度 後援会予算書

項目	元年度予算(A)	2年度予算(B)	比較(B-A)	摘要
1 会費収入	11,650,000	11,742,500	92,500	学部生 @50,000×227人 (大学予算案ベース) 編入生(社福) @37,500×1 編入生(栄養) @37,500×2 大学院生 @20,000×14
2 前年度からの繰越金	24,534,218	25,147,162	612,944	
3 雑収入	168	208	40	預金利息(前年度実績)
合計	36,184,386	36,889,870	705,484	

項目	元年度予算(C)	2年度予算(D)	比較(D-C)	摘要
1 会議費	27,300	27,300	0	後援会総会・理事会等出席に係る 役員の交通費
2 事務費	122,000	122,000	0	保護者懇談会開催案内等送料、 各種振込手数料
3 事業費	11,903,000	11,688,000	△ 215,000	
(1)サークル活動助成費	1,732,000	1,747,000	15,000	自治会活動助成費、サークル助成費
(2)大学祭等助成費	1,500,000	1,500,000	0	大学祭運営費
(3)会報誌作成費	191,000	209,000	18,000	「活彩!保健大学だより」作成・発送費の 後援会負担分
(4)学生福利厚生費	2,081,000	2,150,000	69,000	肝炎検査、貧血検査、 実習に係る諸検査費用
(5)卒業関係・国家試験 対策関係助成費	3,942,000	3,586,000	△ 356,000	卒業関連事業助成、卒業研究・国家試験対策助成 修了関連事業助成、特別・課題研究助成
(6)新入生研修費	2,442,000	2,461,000	19,000	新入生の学外での宿泊研修に係る 宿泊費等
(7)その他	15,000	35,000	20,000	大学院新入生ウェルカムランチパーティー
4 予備費	52,000	52,000	0	慶弔費など
小計	12,104,300	11,889,300	△ 215,000	
5 次年度以降事業費	24,080,086	25,000,570	920,484	
合計	36,184,386	36,889,870	705,484	

令和2年度 年間スケジュール

本学の行事については、本学ホームページをご確認ください。
なお、新型コロナウイルス感染症の影響により変更・中止となる恐れがあります。

<https://www.uhw.ac.jp/>



退職

看護学科

● 沼田 祐子

着任して8年間、たくさんの方に出会い、学生と共に看護のすばらしさを学ばせていただきました。青森での日々は私の大きな財産です。心から感謝しております。皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

理学療法学科

● 鈴木 孝夫

色々な方との出会い、色々な出来事との遭遇、唯々感謝です。少しは成長したかな？

● 勘林 秀行

開学から21年、授業、実習、研究を通して多くの教職員や学生の皆さんと様々なことを学ばせて頂きました。また、卒業生が活躍している姿を見聞きすると何よりもうれしく思います。本当にありがとうございました。

● スミス マイケル

Dear Students, Faculty, and Staff of Aomori University of Health and Welfare

I would like to take this opportunity to sincerely thank everyone for the five years here in Aomori and at AUHW. Teaching here and working with you has been an experience I will never forget. Our plan is to leave Aomori in the spring, but I'm sure that we will have many opportunities to see each other again. I wish for continued success for the university, and for the good health and happiness of all students, faculty, and staff.

Warmest regards always,

社会福祉学科

● 村田 隆史

在職した4年7カ月の間、大変お世話になりありがとうございました。保健大学の学生や教職員の皆さまから学んだことをこれからも活かしていきたいと思えます。

新任

看護学科

● 小野 恵子

在宅看護学領域の准教授として着任致しました。看護師を志して早30年。病院勤務から地域在宅へシフトして早22年。介護保険施行から早20年。在宅ケアの凄まじい変化を皆様と共に学んでいきたいと思えます。

● 進藤 真由美

在宅看護学領域の講師として着任致しました。山形出身ですが、東京、千葉、長野、山梨に在任歴があります。命を支えることと暮らしを支えることは表裏一体だと、在宅看護で学んでもらえるように力を尽くします。

● 神成 真

精神看護学領域の助手として着任いたしました。精神科看護師として約10年の臨床経験があり、以前は看護専門学校の教員をしておりました。精神看護の奥深さを臨床経験も交えてお伝えしていきたいと思っております。

● 種市 輝

地元の高校卒業後に青森県外へ進学し臨床経験を積み、13年ぶりに戻って参りました。講義や演習、実習での専門知識・技術はもちろんです。これまでの経験を踏まえながら、看護とは何かを伝えていきたいと思っております。

理学療法学科

● 羽場 俊広

2019年10月に着任しました羽場俊広です。本学の7期生、大学院生として卒業後は整形外科の病院に勤務しておりました。学生の皆様が理学療法の楽しさややりがいを感じてもらえるよう授業に取り組みたいと思えます。

● 板垣 篤典

1月に着任致しました。私は本学卒業生であり、研究テーマは心疾患の理学療法です。苦手意識を持たれやすい心疾患ですが、学生の皆さんにその面白さや重要性を理解してもらえるよう努めて参ります。

● 篠原 博

理学療法学科の准教授として着任いたしました。スポーツ障害、運動器障害理学療法が専門です。トレーナー活動もしていますので、興味がある方は是非一緒に学べたらと思います。どうぞよろしくお願い致します。

社会福祉学科

● 瀧澤 透

昨年9月に着任しました瀧澤です。学問の厳しさや楽しさを学生の皆さんと共有しながら一緒に成長していきたいと思えます。宜しくお願いいたします。

栄養学科

● 佐々木 雪乃

4月より実習・実習助手に着任いたしました。昨年度、本学の栄養学科を卒業したばかりで、至らない部分もあるかと思いますが、卒業生として学生の皆さんに近い立場でサポートしていきたいと思えます。よろしくお願い致します。

● 三浦 小菜実

4月から実験・実習助手として着任しました。卒業生・教員として学生のサポートをしていきたいです。また、青森県の文化や食などに触れつつ、健康増進に貢献できるよう励んでまいります。よろしくお願い致します。

ヘルスリテラシーコラム



ヘルスリテラシー推進特命部長
大西 基喜

本学では、大学の地域貢献事業の一環として、「ヘルスリテラシー（以下HL）向上の推進」という命題を2014年度に掲げ、そのための事業に2015年度から5年間取り組んできましたが、ついに、この3月で終了しました。

この間、「健やか力向上サポート宣言」及び関連イベントを始めとして、さまざまな活動を行ってきました。主たるものとして、HL科目群をとりいれた第5次カリキュラム編成、地域研修部会でのHL関連講座を主体とした公開講座の開催、HL促進研究助成や研究の公开发表、附属図書館の全体的な関連図書ブックフェア開催などが挙げられます。その他にも、学生が教職員支援の下に公募に応じて行う「HL向上サポート活動」事業も4年間実施しました。また広報活動として、リーフ

レットの作成・配布、ホームページ作成・管理、HLカレンダーの作成、さらにメディアを活用した広報などを行ってきました。これらの事業は、全体として当初からの企画がほぼ実現する形で進められてきたと思えます。本学がHL向上推進に取り組むという意識・姿勢は、この5年間で学内に根つき、また学外でも認知度が高まって来たと考えております。

2019年度をもって当事業は終了しましたが、今後も、大学を挙げてHL向上に寄与していくという意識を引き続き維持し、これまでのさまざまな関連事業を通常業務の中に組み込んでいき、種々の活動を継続するとともに、新規の活動を含め、さらに活性化・発展させていきます。

大学院で自分の「専門性」をブラッシュアップしてみませんか？

— 地域の“健康と福祉”を担う研究者や高度専門職業人をめざして —



大学院健康科学研究科長
佐藤 伸

本学大学院の特徴は大きく3つあります。第一に、他大学ではあまりみられない、多職種との連携や学際的研究の推進をめざした「保健・医療・福祉政策システム」、「対人ケアマネジメント」、「基礎研究・実用技術」の研究領域を設けていることです。自分の研究テーマを軸に、隣接する他の学問領域と連携して研究を進めることは「多職種との連携」につながります。第二に、県内で唯一のがん看護のスペシャリスト（がん看護専門看護師）の養成コースを開設しています。第三に、講義・演習科目については、自らの研究課題やキャリアパスに応じて柔軟に履修できるよう

にしています。さらに、社会人が働きながら学べるように、土日や夜間の授業も開講しています。本学大学院は、学部を卒業してさらに研究を進めたい方、社会人として勤めつつも人々の健康や福祉等について研究をしたいと考えている方などに、将来のキャリアアップに最適な学びの場を提供できると思えます。

本学の大学院で培った高度の専門知識と研究力は、研究者として、あるいは高度専門職業人として、将来のご自身の目標を達成させるためにきっと役立つことでしょう。チャレンジしてみませんか。

国家試験結果と卒業後の進路について

国家試験合格率

看護学科

看護師 97.2%
受験者 107名 合格者 104名
保健師 100%
受験者 30名 合格者 30名
助産師 100%
受験者 4名 合格者 4名

理学療法学科

理学療法士 100%
受験者 34名 合格者 34名

社会福祉学科

社会福祉士 84.3%
受験者 51名 合格者 43名
精神保健福祉士 92.3%
受験者 13名 合格者 12名

栄養学科

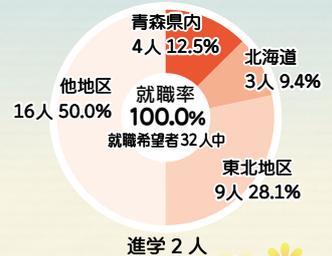
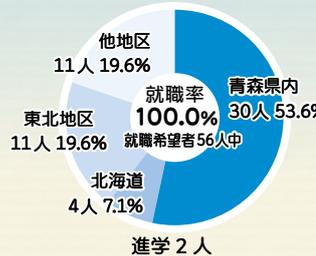
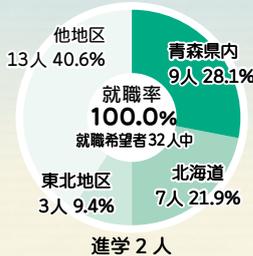
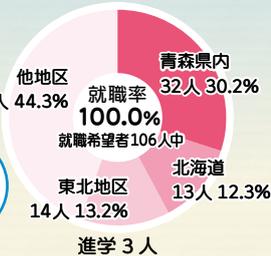
管理栄養士 97.1%
受験者 34名 合格者 33名

社会福祉士の合格率は
全国第2位
(受験者50名以上の学校59校中) でした。

就職率 令和2年5月1日時点



全ての学科で
就職率100%は
開学以来初
なんだって!



本学における「就職サポート」について

本学は開学以来、毎年高い就職率を維持してきましたが、2019年度卒業生においては、100%の就職率を達成するという快挙を成し遂げました。

今後ともきめ細かい就職対策を行っていきたくと考えていますが、その中心となるのが、4月2日にオープンしたキャリア開発センター内に居を構えるリンリンズルームです。リンリンズルームにおいては、学科別・県別の求人票の公開、就職活動に関する冊子・ポスター等の掲示、地元青森県に関する様々な情報の提供などを行っています。また、就職相談嘱託員の櫻田さんが学生からの就職相談に懇切丁寧に応じています。さらに、昨今の状況に鑑み、web面接にも対応できるよう遠隔就職活動支援体制も整えたところです。

本学においては今後とも学生の就職サポートに全力を尽くして参りたいと考えています。



学生を支援する体制について



学生部長
鳴井 ひろみ

新型コロナウイルス対策と学生支援について

新型コロナウイルスの感染が、世界中で広がっている中、皆様におかれましては、様々な生活の制約を受けながら、不安な日々をお過ごしのことと思います。特に新入生の保護者の皆様におかれましては、初めての一人暮らし、新生活にまだ慣れず過ごしている状況について大変心配されていると思います。

大学では、学生の健康と安全・安心な学習環境を第一に考え、教職員一同一丸となって取り組んでおります。新型コロナ

ウイルス感染拡大防止対策に関連して、学生同士の接触も少なくなり、先の見えなさなどから心身の疲れやストレスなど生じやすい状況にあります。学生が心身の健康を保ち、心理的リスクを低減し、この局面を乗り越えていけるよう学生の相談支援体制を強化し、支援していきます。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学生が経済的困難を理由に就学を断念するような事態を回避するためにも経済的支援を行っております。専門の相談窓口も開設し、対応しておりますので、いつでもご相談ください。



保健嘱託員
齋藤 真紀子

学生の心と体を支える体制について 新しい生活での心と体を支えます!

体のこと 頭痛が続く。咳が続く。体がだるい。微熱が続いている。何科を受診したらよいかわからない。など

心のこと やる気がおこらない。気持ちが折れる。黙っていても涙があふれ出てくる。眠れない日が続いている。など

対人関係 友人関係が上手くいかない。自分の居場所がないと感じる。相手の気持ちが理解できない。恋愛問題で悩む。など

学業全般 授業変更の把握が上手くいかない。単位や履修のことに不安がある。集中力が続かず、課題がこなせない。進路について悩む。など

生活全般 同じ失敗を繰り返すことが多い。学習障がいや発達障がいではないかと悩む。家庭・下宿・アパート・サークル・アルバイトについて悩む。LGBTについて悩む。など

新型コロナウイルス感染のような、多くの人にとって今まで経験のない状況下では、不安やストレスを感じて、心の余裕がなくなるのは自然なことです。心身の不調を防ぎながら、つらい状況を乗り越えるために、さまざまな悩みをご相談ください。保健室は、あなたの思いに耳を傾け、一緒に考えていきます。

保健室が窓口となり、体のことは医師と、心理的な悩みはカウンセラー(臨床心理士)と、学科の教員や教務学生課とも連携し、個人情報に配慮しながら、状況の改善に努めます。

一人で悩まず、周囲のサポートを受けながら困難を乗り越えて、実りある大学生活にしていきましょう。

* カウンセラーによる学生相談は、週1回、11時から15時の間です。期日は、管理・図書館棟掲示板「保健室からのお知らせ」に掲示してあります。臨床心理士の岩田彩子さんが、C棟1階のカウンセリング室で、1回50分程度をめぐりにカウンセリングを行います。相談希望者は、保健室に直接来室するか、メール、電話等で連絡してください。

こんなことが
ありませんか?



発行：青森県立保健大学 広報委員会・青森県立保健大学 後援会



〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1 電話 017-765-2000(代表)・FAX 017-765-2188 URL <https://www.auhw.ac.jp/>